



モンシロチョウ

翅の表裏は白で、表には黒い模様があります。畑や草地などで普通に見られます。幼虫はキャベツなどの葉を食べるアオムシとして有名です。

はる 春

なつ 夏

あき 秋



ヤマトタマムシ

外側の翅は金属光沢を持つ緑色で、一対の赤い筋を持ちます。その美しさから装饰材料として使われることで有名です。主に雑木林やその周辺で見られます。

なつ 夏



ナナホシテントウ

赤色の翅に黒い斑点が7個あるように見えることから、名前にナナホシ（七星）とつけました。野菜や花の汁を吸うアブラムシを食べます。畑などで見られます。

ねんかん 年間



ゴマダラカミキリ

黒色の体にゴマのような白い斑点があります。樹皮や葉を食べるため、庭木や街路樹で良く見られます。夜は明かりに向かって飛ぶこともあります。

はる 春

なつ 夏

あき 秋



ジョロウグモ

雌の腹部には黄色と緑青色の縞模様、脚には黄色と黒の縞模様があります。雄は雌よりずっと小さく目立ちません。林の周りなどで網を張って獲物を待ちます。

あき 秋



ナガコガネグモ

雌の体には黄色と黒色の縞模様があります。雄の体は雌より小さく目立ちません。草原や林縁に網を張って、バッタやハエなどの獲物を捕まえます。

あき 秋



アシダカグモ

全身が灰色がかかった茶色で、眼の前方に白い帯模様があります。網を張らず、夜に人家の壁などで獲物を待ち伏せします。ゴキブリなどを食べる益虫とされています。

はる 春

なつ 夏

あき 秋

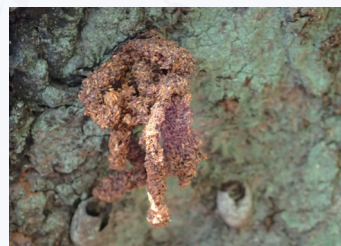


サクラの木を枯らすクビアカツヤカミキリ

とく 特



クビアカツヤカミキリはサクラを含むバラ科の木に産卵し、ふ化した幼虫が幹に侵入して、内部を食い荒らすことで木を枯らしめています。幼虫が侵入した木からは、フラス（食べた木くずや糞）があふれ出てきますので、被害の目安になります。なお、2024年までに千葉県での被害報告はありません。



フラス



クビアカツヤカミキリの成虫

ちょう いるい
鳥 類



み じ き
見られる時期



いちねんちゅうみ
一年中見
られる鳥



わた つつみ はる
渡りの通過で春に
見られる渡り鳥



はる あき み
春から秋に見
られる渡り鳥



わた つつみ あき
渡りの通過で秋に
見られる渡り鳥



あき はる み
秋から春に見
られる渡り鳥

み ば し ょ
見られる場所



た 田んぼ



かわ 川



すい 水路



いけ 池



ぬま 沼



しが 市街地・公園



えん 畑



くさ 草地



りん 林



ヒドリガモ

めす からだ ぜんたいてき かっしよく
雌の体は全体的に褐色ですが、
おす かお くび むね ちゃかっしよく ぜん
雄は顔と首、胸は茶褐色、ほか全
たい はいいろ み ひたい あたま
体が灰色っぽく見え、額から頭に
かけてクリーム色の模様がありま
す。湖沼や河川などで見られます。



カルガモ

おす めす おな いろ
雄と雌は同じ色をしていて、
はいめん くろ ちゃいろ かお
背面は黒みがかった茶色で、顔は
しろ 白っぽく、くちばしの先端が黄色
です。川や沼、公園の池、田んぼ
などで見られます。



オナガガモ

ちゅうおう おばね なが とが
中央の尾羽が長く尖っていま
す。雌の体は全体が褐色ですが、
おす くび ぜんぶ しろいろ むね はら
雄は首の前部が白色、胸から腹は
しろくろ こま まだらちよう た
白黒の細かい斑模様です。田んぼ
や湖沼、河川などで見られます。



コガモ

めす からだ ぜんたい かっしよく おす
雌の体は全体が褐色ですが、雄
は頭以外は褐色ではなく、頭でも
め かき うしろ みどりいろ た
目から首の後ろは緑色です。田ん
ぼや河川などで見られます。日本
の力モとしては最も小型です。



カワラバト

はね ちよう ま しろ
羽の模様は真っ白なものから
ま 真っ黒なものまでいます。もとも
と食用などだったのが野生化しま
した。公園や駅前、河原、農耕地
などで群れで見られます。



キジバト

あたま せ かただかめん むらさき
頭から背、体下面は紫がかった
はいかっしよく くび はいいろ ごんいろ
灰褐色です。首には灰色と紺色の
縦縞模様があります。市街地や田
んぼ、山地の開けた場所などで見
られます。



カワウ

ぜんしん こうたく あるく しろ
全身が光沢のある黒で、くちば
しの付け根から眼の周りが黄色で
す。川や沼、海岸などで見られま
す。水中に潜り、餌の魚やエビを
さが 探します。



アオサギ

はいめん はいいろ あたま しろ め うし
背面は灰色で頭は白く、眼の後
ろから後頭部に黒い帯模様があり
ます。川や沼、田んぼなどで見ら
れます。日本で繁殖するサギとし
ては最も大型です。



ダイサギ

ぜんしん しろ なら
全身が白く、アオサギと並んで
大型のサギです。川や沼、田んぼ
などで見られます。魚やカエル、
昆虫などを食べます。





コサギ

全身が白く、ダイサギなども含めてシラサギ（白鷺）と呼ばれることもあります。脚の指が黄色いのが特徴です。川や沼、田んぼなどで見られます。



オオバン

全身が黒く、額とくちばしが白いのが特徴です。驚くと水面を走るように逃げていきます。川や沼、公園の池などで見られます。近年、全国的に数が増えています。



ユリカモメ

背中が灰色、胸と腹は白です。脚が赤いのが特徴です。頭の色は、秋から冬は白ですが、春頃から黒に変わります。川や沼、海岸、干潟などで見られます。



カワセミ

背面は鮮やかな青緑色で、胸と腹は赤茶色です。川や沼、公園の池などで見られます。水中に飛び込んで、魚などを捕まえて食べます。



サンコウチョウ

頭から首は黒色で、青色のアイリングとくちばしがあります。雄は雌より長い尾羽を持ちます。平地から山地の林で見られます。



ハシボソガラス

全身が黒いです。おじぎをしながら「ガーガー」と濁った声で鳴きます。市街地や公園、農耕地などで見られます。



シジュウカラ

胸にある黒いネクタイのような模様が特徴です。雄は繁殖の季節に「ツピツピツピ」とさえずります。市街地や公園、林などで見られます。



ヒヨドリ

全身が灰色っぽい色合いで、頬は赤茶色です。「ピーヨ、ピーヨ」と大きな声で鳴きます。市街地や公園、林などで見られます。



メジロ

眼の周りの白い縁取りが名前の由来です。顔と背面が黄緑色であることから、ウグイスと間違われることもあります。市街地や公園、林などで見られます。



見られる時期



一年中見られる鳥

渡りの通過で春に見られる渡り鳥

春から秋に見られる渡り鳥

渡りの通過で秋に見られる渡り鳥

秋から春に見られる渡り鳥

田んぼ

川・水路

池・沼

市街地・公園

畑・草地

林

見られる場所



ミソサザイ

日本でもっとも小さな鳥のひとつです。雄と雌は同じ色をしていて、全身が茶褐色で、羽には黒褐色の斑模様があります。林の溪流や沢沿いにいることが多いです。



ムクドリ

全身が黒みがかった茶色で、眼の周りから頬は白く、くちばしと脚は黄色です。市街地の街路樹などをねぐらとし、数千羽以上の群れになることもあります。



シロハラ

頭と喉が灰褐色で、腹はややくすんだ白色です。雌は雄より全体的に淡い色合いをしています。林や公園、果樹園などで見られます。



ルリビタキ

頭から上面は雄が青色で、雌はオリーブ色です。脇腹は雄も雌も淡いオレンジ色です。林や樹木の多い公園などで見られます。



ジョウビタキ

雌は全体的に灰褐色ですが、雄は頭から後ろ首の白色と体の下面のオレンジ色が目立ちます。河原や畑などで見られます。



ノビタキ

夏は頭から上面が雄は黒色で、雌は黒褐色です。雄も雌も翼に白色の斑模様があります。草原や畑、河原などで見られます。



ハクセキレイ

背面は黒から灰色で、胸は黒く、顔と腹は白です。セキレイのなかまでは最も身近です。川や農耕地のほか、水辺から離れた市街地や公園でも見られます。



千葉市の鳥コアジサシ

全長は22-28cmの夏鳥で、海岸や川などの水辺に生息し、狙いをつけて水にダイビングして魚をとらえます。砂浜などに巣を作ります。



鳥の大きさ



鳥の全長は、鳥を仰向けにした時のくちばしの先から尾の先までの長さです。

ほにゅうるい ちゅうるい りょうせいるい
哺乳類・は虫類・両生類



とく とくていがいらいせいぶつ
特定外来生物

み 見られる時期
られる じ き

はる 春

なつ 夏

あき 秋

ねんかん 年間



たんぼ 田んぼ



かわ 川・水路



いけ 池・沼



しが いち 市街地・公園



たばこ 畑・草地



はやし 林

み 見られる場所
られる ば しょ



アライグマ

きた 北アメリカ原産の外来種です。
ペットとして持ち込まれたもの
などが逃げたり放されたりして
野生化しています。雑食性で何
でも食べるため、農作物や在来種
が被害を受けて問題になっていま
す。

アライグマの足跡



うしろあし 後足

まえあし 前足

とく

ねんかん 年間



タヌキ

に 日本や中国などに分布します。
雑食性で、小動物や果実類を食べ
ます。複数のタヌキが同じ場所に
糞をする「溜糞」と呼ばれる習性
があります。

タヌキの足跡



うしろあし 後足

まえあし 前足

ねんかん 年間



アカミミガメ

きた 北アメリカ原産の外来種です。
耳の後ろにある赤い模様が名前の
由来です。子どもはミドリガメ
と呼ばれ、鮮やかな緑色ですが、
成長するにつれて黒っぽい色合い
に変わります。2023 年 6 月 1 日
より「条件付特定外来生物」に
指定されたため、飼育はできます
が、野外に放すことは法律で禁止
されました。最期まで責任をもっ
て飼いましょう。

はる 春

なつ 夏

あき 秋



ニホンヤモリ

ぜんしん 全身が灰色から黒っぽい色合い
です。人家やその周辺にすんでい
て、壁や窓ガラスにはりついて登
ることができます。夜行性で、主
に昆虫を食べています。夜に家
の明かりや街灯に集まるガなど
を狙っている様子が見られます。
産卵は、一度に 2 個の卵を天井の
隅などに産みつけます。

はる 春

なつ 夏

あき 秋



ヒガシニホントカゲ

わか 若い時の背面は黒地に金色の
縞模様、尾は金属光沢のある鮮
やかな青色です。成長するにつれて
茶色っぽい色合いに変わります。
人家周辺や林の周りなどで見ら
れ、日当たりの良い場所で日光浴
をします。石の下などに産卵し、
雌は卵が孵化するまで守ります。

はる 春

なつ 夏

あき 秋



アオダイショウ

背面の色は青みがかった褐色や
くすんだ緑色をしていることが多
く、体には基本的に縦縞模様が 4
列走っています。樹上生が強い
ですが、河原や田畑で見かけるこ
ともあり、餌であるネズミを狙って
民家の屋根裏にすみついたりもし
ます。

はる 春

なつ 夏

あき 秋





ヤマカガシ

背面は褐色の地色に赤色や黄色、緑色などが入った複雑な模様をしています。平地や低山帯の水辺で見かけることが多いです。性格はおとなしいため、何かしないうりみづべは限り噛まれることは少ないですが、強い毒性を持っているため注意が必要です。



ニホンアマガエル

雨が降りそうな時や降っている時に鳴くことから、名前がついたとされています。背面の色は周りに合わせて変化することが知られていて、黄緑色のほか、茶色や灰色などになります。成体は産卵場所となる水辺周辺の草地、林などで見られます。



ヌマガエル

背面は灰色がかった茶色などで、いぼ状の突起があります。腹は真っ白で模様や突起がありません。もともと関東にはすんでいなかったカエルで、千葉県では国内外来種（日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた生物）です。



※は虫類・両生類は、土や水の中で冬を越すので、見るのが難しくなります。



イモリとヤモリの違い

カエルのなかまと同じ
両生類。泳ぐのが得意。



アカハライモリ

みずべ
水辺にすんでいます。
井戸を守るからイモリ。



ニホンヤモリ

トカゲのなかまと同じは虫類。壁を登るのが得意。

いえ
家の近くにすんでいます。
家を守るからヤモリ。

ヒガシニホントカゲとニホンカナヘビの違い

ひあ
日当たりの良い石垣
などにいます。



ヒガシニホントカゲ

こ
子どもの尾は青色

からだ
体の表面がツルツル



ニホンカナヘビ

ひあ
日当たりの良い草地
などにいます。

からだ
体の表面がカサカサ

参考文献

- 五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸（2014）新訂 日本の鳥 550 山野の鳥，416 頁，文一総合出版。
海野和男（2019）増補改訂新版 身近な昆虫識別図鑑，319 頁，誠文堂新光社。
尾園暁・川島逸郎・二橋亮（2022）日本のトンボ 改訂版，532 頁，文一総合出版。
桐原政志・山形則男・吉野俊幸（2009）日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版，368 頁，文一総合出版。
日本チョウ類保全協会（編）（2019）日本のチョウ，343 頁，誠文堂新光社。
千葉県資料研究財団（編）（2002）千葉県の自然誌 本編 6 千葉県の動物 1 陸と淡水の動物 県史 45,988 頁，千葉県。
千葉県資料研究財団（編）（2003）千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌，1181 頁，千葉県。



せいぶつたようせい なに 生物多様性って何??

「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことで、生命はひとつひとつに個性があり、直接的に、または間接的に支えあって生きています。生物多様性が失われる原因は、地域から地球全体に関わるものまで、大きく4つに整理されます。

せいぶつたようせい ちよくめん き き ＜生物多様性が直面している危機＞



※もともとはいなかった国や地域に、人間によって持ちこまれた生き物

※出典:「こども環境白書 2016」(環境省) <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf>

生物多様性を守るため、世界では「30by30」(2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する)が取り組まれています。

がいらいしゅ なか とくていがいらいせいぶつ 外来種の中の特定外来生物

「特定外来生物」は、海外から持ち込まれた種のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ影響・被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から、外来生物法により指定されます。

特定外来生物は次の事項が原則禁止となります。なお、2023年6月1日より指定されている「条件付特定外来生物」は飼養を行えますが、販売や野外への放出などは原則禁止となっています。

がいらいせいぶつほう きせい じこう ＜外来生物法で規制されている事項＞





千葉県千葉市の谷津田

丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形を「谷津（地方によって、谷戸や谷地）」と呼びます。谷津底部の湿地では、豊富な湧水を利用して古くから稲作が行われてきました。こうした谷津に作られた田んぼは「谷津田」と呼ばれています。

谷津田を取り巻く環境には、雑木林のような樹林環境、畦や休耕地などの草地環境、田んぼや小川、湧き水、ため池といった水辺環境などがあり、これら多様な環境がそれぞれ深く関わりあって生き物の生息環境を作っています。

市内には、「大草谷津田いきものの里」に代表される谷津田が点在しており、市の原風景であり多様な生態系を有する谷津田の自然を次世代に守り伝えていくために、地域やボランティアの方々と保全に取り組んでいます。谷津田は、ホタルやトンボ、カエルなど身近な野生生物の貴重な生息空間として機能しているだけでなく、地域文化の伝承など人と人とのつながりにも重要な役割を果たしています。



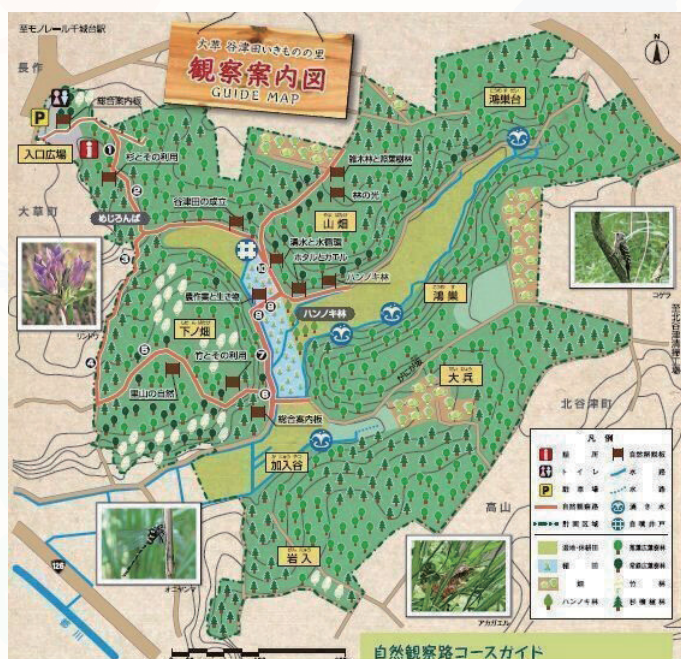
おおくさやっだ
大草谷津田いきものの里



たう
田植えのようす

また、自然観察路（約 1.5km、約 1 時間）や解説板を整備しており、気軽に谷津田の自然や生き物、里山と人々の関わりについて学ぶことができます。

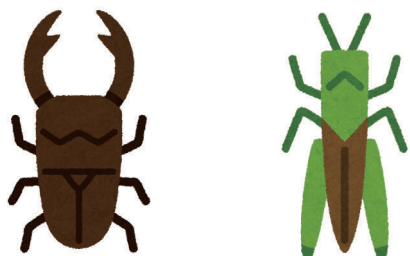
そのほか、谷津田の環境をより身近に感じていただくため、8月を除く毎月第3日曜日に自然観察会を実施しています。



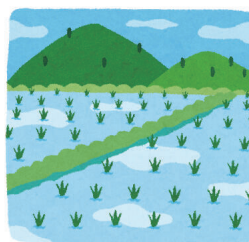
おおくさやっだ
大草谷津田いきものの里の自然観察路案内図

ちょうさ 調査をするときの ちゅういじこう 注意事項

- ①つかまえた生き物は、^{しゃしん}写真を撮り終わっ
たら逃がしましょう。

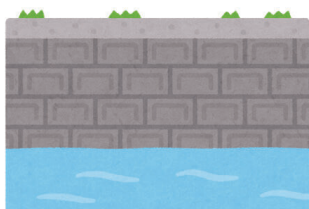


- ②^た田んぼや^{はたけ}畑などの^{しゅうち}私有地には、^{かって}勝手に立ち
入ったり、^ふ踏み荒らさないようにしましょう。



はいらないでね

- ③^{みずぎわ}水際や^ちがけ地などの^{あしほ}足場の^{わる}悪い場所や
^{きけん}危険な場所には、^{むり}無理して^{ちか}近づかないよ
うにしましょう。



- ④^{るい}マムシ、^{けむし}ハチ類、^{きけん}毛虫などの^い危険な生き
^{もの}物に^{ちゅうい}注意しましょう。



- ⑤^{ちい}小さな子どもは、^{おとな}大人と^{いっしょ}一緒に出かけま
しょう。



- ⑥^{てんこう}天候には、^{じゅうぶん}充分^き気を配り、^{くぼ}雨天時は^{うてんじ}調査
^{ちゅうし}を中止しましょう。



- ⑦^{ぼうし}帽子を着用し、^{ちやくよう}水分の^{すいぶん}補給を行うなど、
^{ねつちゅうしやう}熱中症の^{よぼう}予防をしましょう。



身近な生き物さがしのホームページ

千葉市 生き物



「生き物調査」に関する問合せ先

ちばし かんきょうきょく かんきょう ほぜん ぶ かんきょう ほぜん か
千葉市環境局 環境保全部 環境保全課

TEL:043-245-5141

E-mail:kankyohozen.ENP@city.chiba.lg.jp